

ベナン月例報告（2013年6月）

1. 内政

- ・ 5月28日、司法分野の人事発令があり、ベナン司法官全国同盟（UNAMAB : l' Union Nationale des Magistrats du Bénin）ははかかかる人事発令がこれまでの司法人事の慣例を大きく覆すものであり、司法に混乱を来すとのコミュニケを発表した（同人事リストは2011年時にも一度閣議で提案され、UNMABの抗議により、実行されなかった経緯がある。）。
- ・ 1日、ドス（M.Robert DOSSOU）憲法裁判所長官の任期満了に伴い、ベナン政府は同氏を再任しない旨発表した。一部には、ヤイ大統領は、ドス氏では、憲法改正をスムーズに進めることができないと考え、同氏を再任しなかったと伝えられる。
- ・ 3日、ベナン石油製品販売公社（SONACOP : Société nationale de Commercialisation des Produits Pétroliers）のウス（M.Expédit HOUESSO）前総裁の不適切な運営により、同氏が解任された事態受け、政府は、海外の外部監査機関にベナン電気エネルギー公社（SBEE : Société Béninoise d' Energie Electrique）や国営テレビ・ラジオ局（ORTB : Office de Radiodiffusion et Télévision du Bénin）等他の公社の監査を依頼することを決定した。
- ・ 4日、司法分野の人事発令に関し、バトコ（M.Ousamane BATOKO）最高裁判所長官は UNMAB と会談し、人事リストの修正を行う旨説明した。
- ・ 4日、バニコアラ（Banikoara）市の綿花の契約栽培農家団体が、綿花の売上げが未払いであるとして抗議活動を行った。
- ・ 5日、ベナン・ニジェール鉄道・輸送共同機構（OCBN : Organisation Commune Benin-Niger des chemins de fer et des transports）の労働組合は、同社に不透明な資金運用がある旨発表した。
- ・ 7日、オロ（M.Théodore HOLO）氏が新憲法裁判所長官に選出され、大統領府において、憲法裁判所新判事7名の宣誓式が行われた。
- ・ 11日、ヤイ大統領は、大統領選挙規則の変更、会計検査院及び国家独立選挙委員会の憲法規定、及び条約や借款の締結時における憲法裁判所の権限強化を柱とした憲法改正案を国民議会に提出した。
- ・ 12日、ナゴ（M.Mathurin NAGO）国民議会議長は、ヤイ大統領が国民議会に提出した憲法改正法案の受領通知を発出し、その中で、同改正法案がベナンの民主主義を強化するだろう旨記載した。
- ・ 18日、人事リストが修正されずに放置されていること、また、ウス裁判官の安全保障のための政府の措置が不十分であることに抗議し、UNAMAB は、国民議会において25日から72時間のストライキに入る意向を示した。
- ・ 18日、開発省は、国勢調査の結果を発表し、現在の人口は、9, 983, 884

人である旨暫定結果を発表した。前回の2002年調査時より3.5%の増加となる。コトヌ市人口は、678,000人であり、2002年当時、全人口の9.8%を占めていた人口比は、今回は6.7%に後退した。

- ・ 19日、バトコ最高裁長官は、UNAMAB の発表に対し、極めて強い遺憾の意を表した。
- ・ 20日、憲法改正法案に関し、タロン氏の弁護士も務める大物弁護士ジョグベヌ (Me. Joseph DJOGBÉNOU) 氏がラジオ番組にて反対を表明した。
- ・ 27日、ヤイ大統領はウエメ・プラトー (Ouémé-Plateau) 県の違法ガソリン販売者らと会談した。
- ・ 29日、憲法改正法案に関し、大統領の出身地であるボルグ県の与党勢力及びコトヌ市ゼミジャン (バイクタクシー) 労働組合が支持を表明した。同日、UN (Union fait la Nation) 等野党側は、反対を表明した。

2. 外政

- ・ 24日、ヤイ大統領はカメルーン的首都ヤウンデ (Yaoundé) で開催された、ECOWAS、CEEAC、CGG の首脳会合に出席した。同会議では、ギニア湾岸の海賊対策やマリ情勢等について話合われた。

3. 経済

- ・ 5日、オニフィアデ・ババムッサ (Mme. Sofiadé ONIFIADÉ BABAMOUSA) 零細融資・青年女性雇用担当大臣は、綿花増産のため、綿花生産者に対し、総額34億FCFAの信用貸し付けを行うことを決定した。
- ・ 10日、ヤイ大統領は、アドベランデ (M. Christian ADOVÉLANDÉ) 西アフリカ開発銀行総裁と会談し、2013年度のベナンの綿花生産について意見交換をした。
- ・ 12日、仏大使館とベナン民間投資家評議会 (CIPB : Conseil des Investisseurs Privés du Benin) は、コトヌでビジネス環境改善のためのワークショップを開催した。
- ・ 14日、ベナン中小企業局 (ANPME : Agence Nationale des Petites et Moyennes Entreprises) はモノ (Mono) 県及びクフォ (Kouffo) 県の中小企業に対し、経営改善の研修を行った。
- ・ 15日、2013年度の綿花生産のための2万5千トンの尿素肥料がコトヌ港に到着し、ヤイ大統領が視察した。

4. 開発・協力

- ・ 3日、米はコトヌでブルキナファソ、ニジェール、トーゴ、セネガル、ベナンの5ヶ国に対し、汚職対策のワークショップを開催した。同ワークショップにおいて、

アフリカ諸国では平均してGDPの20%の額が汚職等のために開発等に使われず消えている旨強調された。

- ・ 5日、国際環境の日に伴い、アハンハンゾ・グレレ（M.Blaise Onesiphore AHANHANZO GLELE）環境・住宅・都市計画大臣がトフォ（Toffo）市で食糧の廃棄削減を目的とした式典を主催した。
- ・ 12日、国際児童労働撲滅の日に伴い、労働・公職省はコトヌでワークショップを開催した。ベナンでは、5歳から17歳の約66万5千人の児童が何らかの労働状況にあり、そのうち約60万人は危険な労働に従事しているとされている。

5. 社会

- ・ 7日、デグラ（M.Benoît Assouan Comlan DEGLA）内務大臣はコトヌで、麻薬撲滅のためのワークショップを開催した。検挙されるコカインやヘロイン等の量は年々増加しており、2012年には、425キロのコカイン及び127キロのヘロインが検挙された。同大臣は取締りを強化していく旨述べた。

6. 治安

- ・ 8日から9日の深夜にかけ、ボイコン（Bohicon）ーペペデポ（Kpepedekpo）間において、武装強盗団が出没し、ベナン海兵隊中尉1名を殺害、中尉1名を負傷させ、通行人より金品を強奪した。
- ・ 10日、ンダリ（N' Dali）市で道路整備を行っている中国人労働者の共同住宅に強盗が押し入り、1800万FCFAが入った金庫が盗まれた。同月18日、パラク（Parakou）市の憲兵隊は窃盗団容疑者5名を逮捕した旨公表した。
- ・ 12日、早朝ミサに参加するためにアボメイ（Abomey）市ジメ（Djime）地区にある教会を訪れたイタリア人シスターが教会前に車を駐車したところ、2名の武装強盗が同車を強奪した。
- ・ 30日、ポルトノボ（Porto-Novo）のラギューンにおいて、乗客で満員の乗り合いバスが横転・水没し、3人の死亡者が発見された。また同日、グティ（Gouti）でも55人を乗せた乗り合いバスの事故が発生し、15人の死亡者が出た。